

「好きな場面をげきでしようかいしようー『きつねのおきゃくさま』ー」（11時間扱い）

授業者 真田 武知

1 教材の特徴

学習内容の系統性

学習指導要領第3章第1・2・3節国語の「読むこと（文学的な文章）」（以下、「読むこと」と表記）によれば、「読むこと」の指導内容は「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」「共有」の4つのカテゴリーに分かれており、それらの学習過程を意識して展開することとなります。「読むこと（エ）」の目標は、第1学年及び第2学年「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」、第3学年及び第4学年「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。」、第5学年及び第6学年「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」となっています。

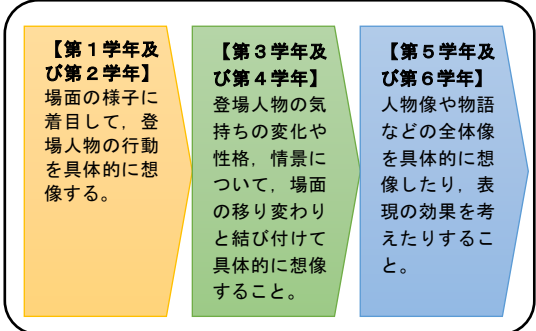


図1 「読むこと（エ）」の系統性

本単元の目的

本単元では、教材『きつねのおきゃくさま』を読み、登場人物のきつねの行動を具体的に想像します。きつねの行動を具体的に想像することにより、「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。」という資質能力を育成することを目指します。

登場人物の行動を具体的に想像するための方策

本単元では、子供が登場人物の行動を具体的に想像することができるようにするための手立てとして、「好きな場面をげきでしようかいしよう」という活動を設定します。

成家(2012)¹⁾は、単元名『かえるくんとがまくんの名場面劇場～シリーズの名場面を演じて紹介しよう（教材：「お手がみ」）』で登場人物の行動をペープサートで演じるという言語活動を設定した実践を行っています。実践を通して、子供たちが登場人物の行動を豊かに想像して、表現できたことを報告しています。ペープサートや劇で演じるためには、登場人物の会話や行動に自ずと注目することになります。本実践では、「好きな場面をげきでしようかいする」という言語活動を設定することで、子供たちが登場人物の行動や会話を具体的に想像することができると思います。

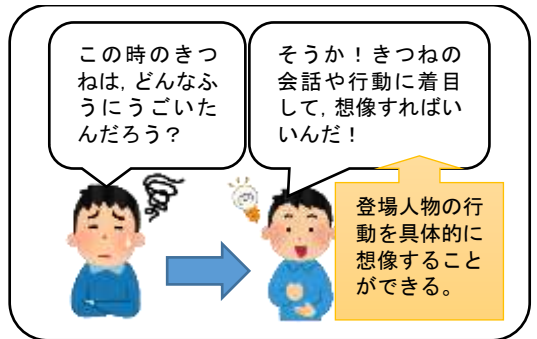


図2 物語を演じる意義

注1 成家雅史(2012)、「感性と論理を言語活動中心単元で育てる読みの授業：ペープサートで演じて紹介する（国語科）」、『東京学芸大学附属小金井小学校研究紀要』No. 34, pp. 19 - 22.

中心となる概念

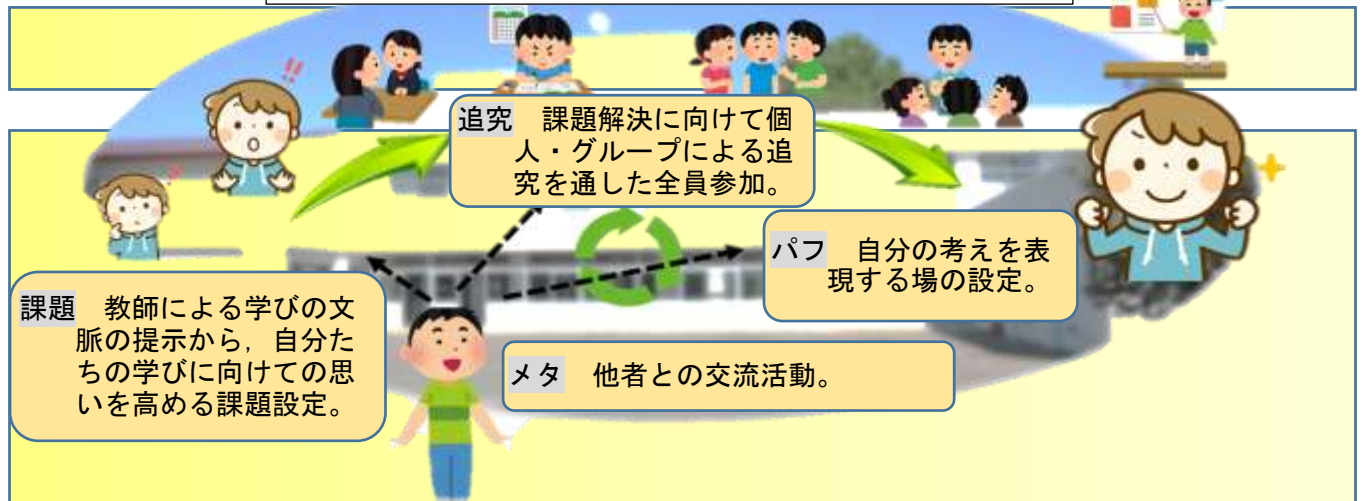
登場人物の会話や行動に着目してお話を読む学習は、第3学年以降に登場人物の心情に着目していくお話を読む基礎となります。第1学年及び第2学年で登場人物の行動を具体的に想像できるようになることで、第3学年以降で登場人物の心情や心情の変化を具体的に想像する資質能力を育むことをねらいます。

2 本単元の目標と学習内容を身に付けた姿、具体的支援（課題設定、追究、パフォーマンス、メタ認知）

目標 登場人物の会話や行動、場面の様子に注目して読むことで、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

**本単元で鍛える
見方・考え方** 登場人物の行動や会話に注目することで、物語の展開を理解したり、登場人物の気持ちを想像したりすることができる。

「子供が学びをつくる」ための具体的支援



見通しをもつことができる課題設定	子供との対話を通して課題を設定することで、何のために学習していくのかが明らかになり、子供が目的をもって学ぶことができると考えます。他者との交流を設定することで、自分で考えることに抵抗がある子供も、安心して学習に取り組めるようになります。
メタ認知を促す交流活動	物語を読み、登場人物の行動や会話についての自分の考えを表現する学習を行います。自分の考えを他者と交流し、似ている点や異なる点に気付くことで、自分の考えを客観的に捉えることができるようになります。
グループ追究による全員参加	グループでの交流から全体での交流を通して、他者とかかわり、互いのよさを見付ける機会を設定します。きつねの動作を考える場面では、アイデアが次々に浮かぶ子供となかなか思い浮かばない子供がいるので、全体で交流できるようにします。そうすることで、なかなかアイデアが浮かばない子供も大きな負担なく取り組めると考えます。
個人の追究による全員参加	課題に対する自分の考えをまとめたり、課題解決を行ったりする個人追究の時間を設定します。全体交流の前に、自分で物語を読んで想像したことをワークシートに記入します。なかなか書き込めない子供に対しては、教師が登場人物の行動や場面の様子が具体的に想像できるように支援し、全員参加の学習を保障します。

**本単元の
学習内容を
身に付けた姿**

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力
言葉には、物事の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。（ア）	場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（エ）	物語の好きな場面を選んだり、登場人物の行動や会話を読み、場面の様子を想像したりしようとする。

4 単元計画

次	時	子供の学習活動 (○) 教師の支援 (課題, 追究, パフ, メタ)
1	1	○今後の学習への見通しをもつ。 →『きつねのおきゃくさま』の好きな場面を劇で紹介することを を知る。 課題 本単元の学習を生かして、桐の 子発表会で劇を発表することを 知る。 ○『きつねのおきゃくさま』の読み 聞かせを聞く。 パフ 心に残った場面と理由を発表 する。 ○次時の見通しをもつ。
	2	○前時の学習を振り返る。 ○全文を通読する。 パフ・メタ 前時の感想と本時の感想 の違いを交流する。 課題 好きな場面を劇で紹介するに は、どのように学習を進めると よいか考える。(学習計画を立て る) ○次時の見通しをもつ。
2	3	○前時の学習を振り返る。 ○全文を通読する。 ○物語の大体を捉える。 →繰り返しのある展開で物語が 構成されていることを捉え る。 ○次時の見通しをもつ。
	4	○前時の学習を振り返る。 ○1の場面を読む。 追究 主にきつねの行動に注目して、 きつねが何をしたのか、どのよ うな表情・口調・様子だったのか を具体的にイメージする。 パフ 「ぼうっとなった。」の部分 を中心に動作を考え、交流する。 メタ 自分の考えと友達の考えの違 いに気付く。 ○次時の見通しをもつ。
	5	○前時の学習を振り返る。 ○2の場面を読む。 追究 主にきつねの行動に注目して、 きつねが何をしたのか、どのよ うな表情・口調・様子だったのか を具体的にイメージする。 パフ 「うっとりした。」「ぼうっ となった。」の部分を中心に動作 を考え、交流する。 メタ 自分の考えと友達の考えの違 いに気付く。 ○次時の見通しをもつ。

次	時	子供の学習活動 (○) 教師の支援 (課題, 追究, パフ, メタ)
2	6	○前時の学習を振り返る。 ○3の場面を読む。 追究 主にきつねの行動に注目して、 きつねが何をしたのか、どのよ うな表情・口調・様子だったのか を具体的にイメージする。 パフ 「うっとりして、きぜつしそ うになった。」の部分を中心に動作 を考え、交流する。 メタ 自分の考えと友達の考えの違 いに気付く。 ○次時の見通しをもつ。
	7	○前時の学習を振り返る。 ○4・5の場面を読む。 追究 おおかみと戦っている時のき つねの様子やきつねが何をした のか、どのような表情・口調・様 子だったのかを具体的にイメー ジする。 パフ 動作化を用い、激しい戦いの様 子を想像しやすくする。 パフ 「ゆうきがりんりとわいた。」 の部分を中心に動作を考え、交 流する。 ○次時の見通しをもつ。
	8	○前時の学習を振り返る。 ○6・7の場面を読む。 追究 主にきつねの行動に注目して、 きつねが何をしたのか、どのよ うな表情・口調・様子だったのか を具体的にイメージする。 パフ イメージしたことを基に、6・ 7の場面の動作を考え、交流す る。 メタ 自分の考えと友達の考えの違 いに気付く。 ○次時の見通しをもつ。
	9	○班で劇をしたい場面について話 し合う。 ○班で劇をする場面の練習をす る。 ○次時の見通しをもつ。
3	10	○班ごとに、劇の練習をする。 ○次時の見通しをもつ。
	11	○劇の発表会をする。 ○単元全体の学習を振り返る。 メタ 自分の学びを振り返る。

5 本時案 (7/12)

<p>本時の目標 4・5の場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。</p>	
<p>学習活動 (○) と子供の姿 (囲み)</p>	<p>教師の支援 (☆, 罫, 遡, パ7, ム) と評価 (◇)</p>
<p>○学習計画表を確認しながら、前時の学習を振り返る。</p> <p>○前時までの台本を確認する。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p>	<p>罫本時は、単元全体のうちのどこに位置するのかを把握できるようにする。</p> <p>☆前時までには話合ってきたことを台本としてまとめ、提示する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>4・5の場めんを読んで、きつねのどうさを考えよう。</p> </div>	
<p>○4・5の場면을音読する。</p> <p>○4・5の場面の出来事を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおかみが、山から下りてきた。 ・きつねが、おおかみとたたかった。 ・おおかみが、にげた。 ・きつねが、しんだ。 <p>○「言うなり、きつねはとび出した。」の部分のきつねの動作を考える。(個人)</p> <p>○グループで交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「言うなり」ってことは、言ってすぐに飛び出したってことだと思う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>わたしもそう思う。きっと3びきを守ろうとして、いきおいよく飛び出したんじゃないかな？</p> </div> <p>○全体で考えを交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に演じて、イメージを共有する。 <p>○ペアで、4・5場面を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で交流してわかったことを生かして、音読する。 <p>○次時の見通しをもつ。</p>	<p>☆ペアで1文ずつ音読するように指示する。</p> <p>☆子供が場面全体のイメージをつかめるように、「おおかみが登場したこと」「おおかみときつねがたたかったこと」「きつねがしんだこと」をおさえる。</p> <p>遡 これまでのストーリーを踏まえて、考えるように促す。</p> <p>☆考えられない児童には、教師が問いかけながら書くようにする。</p> <p>◇場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができている。</p> <p>ム 他者の考えを聞き、自分の考えとの共通点や相違点に気付くように促す。</p> <p>☆全体交流の場面で、実際に演じる場面を設定する。</p> <p>パ7 考えた動作を発表する際に、劇化するように促す。</p> <p>☆友達の演技を見て気付いたことを発表するように促す。</p> <p>☆本時で学習したことを踏まえて、ペアで音読するように指示する。</p> <p>☆次の時間は、6・7の場면을学習することを確認し、見通しをもてるようにする。</p>